

# 行政視察報告書

平成27年7月21日

貝塚市議会議員 北尾 修 殿

自由市民 食野 雅由  
田中 学  
田畑 庄司

## [調査目的及び、訪問市]

第1日 平成27年7月15日(水) ふるさと応援寄付について 宮崎県 都城市
第2日 平成27年7月16日(木) ふるさと応援寄付について 宮崎県 綾町
第3日 平成27年7月17日(金) ふるさと応援寄付について 佐賀県 小城市

### 第1日 平成27年7月15日(水) 宮崎県 都城市

今回の視察目的は、近年全国で大きな成果をあげている、ふるさと応援寄付（ふるさと納税）について九州の2市1町を訪問し、そのノウハウを勉強すべく視察をいたしました。



議会事務局次長 中島 恵利子氏



総合政策課 野見山副主幹・甲斐主査

第1日目は、鹿児島空港からレンタカーで宮崎県都城市役所に着きました。  
午後2時から総合政策部総合政策課副主幹 野見山 修一氏と主査 甲斐 浩之氏よ

りふるさと納税について説明がありました。ふるさと納税のメリットは、都城市のPRになる（9箇月で寄付件数約71,000件）、地場産業の振興（販路拡大）に繋がる、そして地元に入るお金や市の税収が増加する事で、デメリットは全く無いとの事です。この施策の性質上もっともであると感じました。特に驚いたことは、お礼の特産品は宮崎牛と焼酎に限定されていることでした。その背景として全国的に有名な宮崎牛と生産量日本一の霧島酒造の焼酎が市内にあり、それに勝るものはなく、二つの返礼品で対応できるのは羨ましく思いました。全国的に注目をされて大きな成果を上げているが、返礼品の品切れ状態が生じるなど今後の課題もあるようです。本年度の都城市の戦略は、ふるさと納税日本一を目指すことと、肉と焼酎をメインに、一定の品質基準を保ちながら特産品の拡充を図ることだそうです。

質疑応答に入り、対応されている職員数を尋ねると、7名の職員が直営で当たられているとの事でした。その後、意見交換を交えて質疑は終了しました。

都城市の取組みの感想として、有名な返礼品の2品がこの素晴らしい結果をもたらしていると感じました。

## 第2日 平成27年7月16日（木） 宮崎県 綾町

綾町も前日視察をした都城市と肩を並べるほどの先進地であります。その取組みを貝塚市に取り入れられるように、期待をして視察に入りました。説明員は、総務税政課ふるさと納税係長 山口 貴之氏で、ふるさと納税係は一気に増大したふるさと納税に対応するため4月に新設された係であり、昨日の都城市と同様、最初はその管理を職員がエクセルで対応していたものの、処理数が大幅に増えパンク状態に陥り「シフトプラス」という納税管理システムの導入に踏み切ったそうです。その申込みの9割は、ふるさと納税ポータルサイト「ふるさとチョイス」からで、入金方法はクレジットカード決済が約7割を占め、その申込件数は全国1位との事です。返礼品は、都城市と異なり約60品目の中から選べるようになっていています。中でも人気は牛肉であり、ブランドである宮崎牛の人気にはここでも驚きました。



左から山口係長、吉川事務局長、押田議長



行政視察の一コマ

説明が終わり、質疑応答、意見交換に入りました。綾町にはそば焼酎の生産で有名な雲海酒造があるが、都城市と違い、あまり大きく取り入れていないように感じました。

押田議長の家業は小牛を生産されている畜産業で、その場でふるさと納税をした田中議員に牛肉セットを勧めておられました。

貝塚市より行政規模の小さい綾町にとって、このふるさと納税はとても大きな財源であると感じました。終了後、九州新幹線新鳥栖経由で佐賀に入りました。

### 第3日 平成27年7月17日（金） 佐賀県 小城市

小城市は、佐賀県のほぼ中央にあり、平成17年に旧小城町、三日月町、牛津町、芦刈町が合併し人口約4万5千人の市であります。総務部企画政策課長 大橋 隆司氏と池田係長から説明を受けました。平成26年度の計上は、寄付目標金額が3月当初100万円であったが、5月の納税専門サイトの導入で予想を上回る寄付が集まり、7月報償費等予算不足により予備費充当、8月も報償費等予算不足により予備費充当、9月議会に補正予算計上し（寄付目標額7,598万5千円）、10月にクレジット支払いを開始。サイトの特集をPRすると寄付がどんどん増え、エクセルで管理していたが、都城市、綾町と同様にパンクし、11月に申込受付システムを導入されました。12月議会に再び補正予算計上（寄付目標額2億2,390万円）、1月には臨時議会を開いて補正を組み、このような大きな成果（寄付目標額6億円）を上げ、平成27年度予算には寄付目標額7億円で予算計上されたそうです。



歓迎のメッセージボード



説明をする大橋課長と池田係長

小城市は、都城市、綾町と違い、佐賀牛が少し有名ではあるものの、アイスクリーム、和菓子、米、海苔、生花、麺類、帽子、ストール等色々な返礼品でその人気を向上されていきました。貝塚市も工夫をして、成果を上げる検討はしなければならないと感じました。又、返礼品を受注された市内業者との関わりについても、官民の垣根が無くなり、業者からの前向きな提案が増え、より良いパートナーシップが保たれているようです。今回の説明を中心的にいただいた池田係長は、一番のキーマンで熱い気持ちを持った職員であ

と感じました。貝塚市にも高いモチベーションを持った職員は大勢いると思いますので、市政運営に期待したいものです。

今回の視察で、都城市と綾町は貝塚市と比べて取り巻く環境が大きく相違していると感じました。小城市は全国的にも有名な市ではなく、ブランド力の持った特産品も少ないが、担当されている官民の関係者の熱い思いを感じ取りました。